平成 25 年度市民提案型協働事業報告書

事業名：こけーら文化遺産発掘隊

１　実施団体　　入間市の文化遺産をいかす会

２　市担当課　　入間市博物館

３　事業目的

前年の平成 24 年度協働事業の活動を基礎として、それらの内容をより深めるために、黒須地区周辺の文化遺産群、およびジョンソンタウン(ジョンソン基地時代の事柄、米軍ハウスの生活に関する継承事例として)等を「深く知り」「記憶・記録」することによって市内外にその文化遺産の存在を広く伝え、人々の関心を高めるための情報基盤づくりを行う。

４　役割分担

団　　体：① 企画・運営・講師依頼交渉
②文化遺産マップの作成
③広報活動（ポスター、チラシ作成）・ＨＰでの事業報告
④参加型事業の募集・受付

市担当課：① 経費負担、情報の提供、助言。
② 募集案内の市報掲載、公民館等へのポスター・チラシ配布協力。
③ 市施設利用への窓口協力、助言。

５　事業の決算額（詳細は別紙「協働事業収支決算書」参照）

277,718 円（内市委託料 130,000 円）

６　事業の実施内容

期　日	内　容	備　考
―	企画展事前準備会を適宜開催する	
5/1（水）	企画展を HP 上での告知、チラシ配布	
―	この間、丸広百貨店と適宜打ち合わせ	
5/7（火）	部会調整会議（イルミン）	
5/13（月）	展示パネル作成（イルミン） 所沢記者クラブにてプレスリリース	
5/18（土）	会場展示	

5/19（日） ～26（日）	★企画展「ヴォ-リズと武蔵豊岡教会展」 会場:丸広百貨店 1 階エントランスホール ［関連自主事業］まち歩き「こけーら散歩 2013・春」を 5/25（土）開催。50 名の申し込み参加。	6/1（土） 報告記事ホームページ掲載
5/26（日）	展示物撤収	
6/7（金）	部会調整会議（*楽蔵）	環境フェア調整等
6/15（土）	環境フェア準備　パネル展示作業	
6/16（日）	環境フェア　ミニ企画展	
7/12（金）	部会調整会議（*楽蔵）	
―	12 月イベントまでの間、谷氏ヒアリング３回、ジョンソンタウン等との調整会議５回	
8/8（金）	部会調整会議（*楽蔵）	
9/6（金）	部会調整会議（*楽蔵）	
10/4（金）	部会調整会議（*楽蔵）	
10/9（水）	修武台記念館で資料収集および見学会	
11/12（火）	ホームページにて告知　見学会募集	
11/15（木）	市報にて告知　見学会募集 チラシ配布開始	
11/19（火）	プレイベント１ 「写真と図で見る入間市の歴史」 会場：イルミン・活動室１	
11/20（水）	見学会（12/15）受付開始 所沢記者クラブにてプレスリリース	
11/30（土）	生涯学習フェスティバル展示作業	
12/1（日）	生涯学習フェスティバル　パネル展	
12/2（月） ～13（金）	プレイベント２ 「ジョンソン基地の米軍ハウス」関連写真展 会場：市役所１階ロビー	

12/13（金）	市役所ホール　展示物撤収 ジョンソンタウン　調整、下見	
12/14（土）	前日準備　産業文化センター	会場設営、調整
12/15（日）	**★見学会＆講演会 ジョンソン基地の米軍ハウス ～入間の中のアメリカ～**実施 会場：午前・ジョンソンタウン 　　午後・産業文化センターホール	
12/16（月）	部会・企画反省会（*楽蔵）	
1/10（金）	部会会議（イルミン）　電子版調整・他	
2/7（金）	部会会議（イルミン）　電子版調整・他	
2/15（土）	**★電子版試作（β版）構成完成**	
3/5（水）	報告書作成最終会議	

７　事業の実施結果

平成 25 年度の市民提案型協働事業は以下の３事業

①文化遺産解説電子版・・・こけーら文化遺産発掘隊

②企画展「ヴォ-リズと武蔵豊岡教会展」

③見学会＆シンポジウム「ジョンソン基地の米軍ハウス」

を柱に実施した。また、これらに関連して、情報提供を目的としたプレイベント２回の開催、環境フェア、生涯学習フェスティバルでの報告展示を実施した。さらに、連動した自主企画としてまち歩きを実施した。

これらの活動内容に関しては、当会のホームページ等にて事前に告知し、募集等を行なった。個々の事業終了後には報告記事を掲載し、本協働事業を記録化、公開している。以下、実施順にその概要を記す。

①企画展「ヴォ-リズと武蔵豊岡教会展」　5/19（日）～5/26（日）

武蔵豊岡教会の現在の教会堂は、献堂式からちょうど 90 周年の節目を向かえた。また、区画整理事業との関係で現在の位置を移動するための工事に入ることともなっており、この機会に教会堂に関ること、およびその設計者である W.M.ヴォーリズについての情報の深堀り対象とした。収集した資料は企画展を行い公開する。合わせて電子版用の基礎資料として活用することとした。

1）資料収集

企画展用の展示パネル作成にあたっては、その原稿作成の元となる情報源が必要となるが、当会にはヴォーリズに関する造詣の深い会員の存在があり、その作業は比較的目途を立てながら行えたことは幸いであった。ヴォーリズに関する資料やその入手先となる団体等との関わりなどがあったことが資料の充実度を高めたものと考えている。特に、ヴォーリズ記念館からはヴォーリズに関するオリジナル写真の提供をいただくなど、展示内容を充実できた。

武蔵豊岡教会に関する資料は、すでに他の活動で史跡研究を進めている会員の情報源によって相当な部分をまとめることができた。さらに、教会の協力も得られ、例えば献堂式にヴォーリズから送られた祝電の原本なども発見でき、貴重な資料の存在があることも確認できた。

今回集めた資料に関しては、その一部を電子版への掲載としたが、次年度にも他の情報の追加を可行う予定である。

2）広報活動

武蔵豊岡教会の移設改修工事（5 月上旬から）のタイミングに合わせて事業実施の計画したこともあり、本協働事業実施 5/1 スタートよりも前から、展示会場として利用依頼した丸広百貨店との調整、展示パネルの原稿や告知のチラシ原稿などの内容についての下準備を行っていた。

市報での告知は時間的に対応は不可能であった。印刷チラシ（右図）を公民館等へ配布する、当会ホームページに告知する等を行なった。

告知の期間が限られることから、5/13 に所沢記者クラブにてプレスリリースを行った。その結果、5/16 に読売新聞（右図）への記事掲載をはじめに、5/18 には毎日新聞、埼玉新聞、5/19 には東京新聞など各紙朝刊への記事掲載があった。このことによって開催 8 日間で、記録できただけで延約 1400 名を数え、市外からの来場者が多かったことにつながった。

3）企画展の実施

初日のオープニングには、田中入間市長をはじめ、武蔵豊岡教会の栗原牧師よりご挨拶いただき、教会聖歌隊の皆さんによるヴォーリズ作詞の賛美歌は企画展の華やかなスタートになった。

△田中入間市長

△栗原牧師

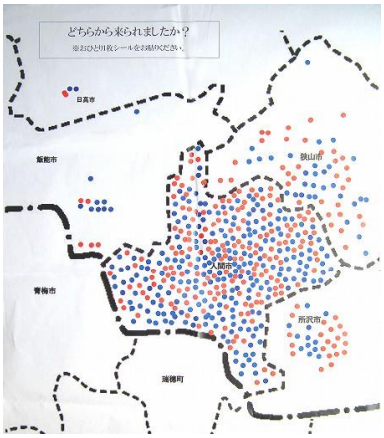
△教会聖歌隊の合唱

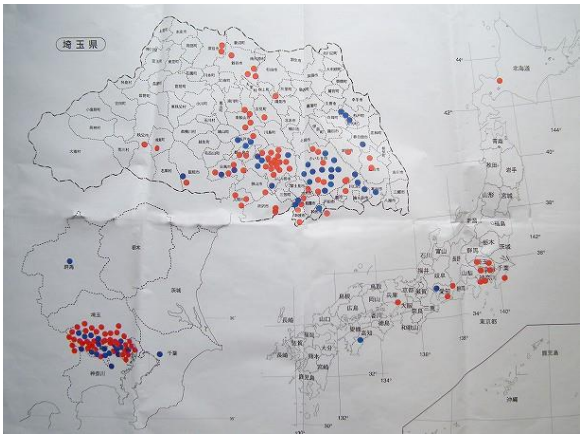
最終日は、ゴスペルのデュオによるミニコンサートで幕を閉じることができた。当会メンバーの横のつながりによって多くの方々の協力が得られたことが盛会へとつながった。

収集資料は、パネル化して主事業である丸広百貨店のエントランスホールでの展示（5/19～26）を行い、第２回いるま環境フェア（6/16）（右図）においてもそのパネル

の一部を展示した。

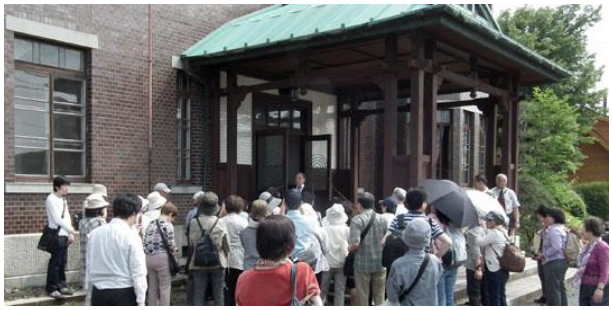
会場には地図を用意し、どの地域からの来場かなどをマークしてもらった。市外からの来場も多かった。





4）まち歩き（自主事業）

季節がらまち歩き「こけーら散歩2013・春」を企画展に連動した当会の自主事業として実施した。企画全体を盛り上げる効果があった。事前申込み制とした。キャンセルもあったが当日の参加者も得られ、50名の参加によるまち歩きとなり、盛会に終わる。



今回のまち歩きでは、特に西洋館はこの企画のために公開依頼を行った。これは前年度の同様事業に際して、西洋館の一般公開日に合わせて事業を計画したことにより、西洋館に来場の他の大人数への対応の難しさを回避し、企画参加者への満足度を高める方策としての試みであった。結果としては、2班に別れて参加者の誘導は比較的スムーズに行えた。そのため展示内容を見る時間的余裕が得られ、概ね想定した通りと考えている。市内文化遺産の利活用の一提案となったのではないかと考える。

5）取材・放映

①入間ケーブルテレビ　ニュースいるま

5月24日（金）　初回17：45～、

（再）22：15～　翌日9：00～

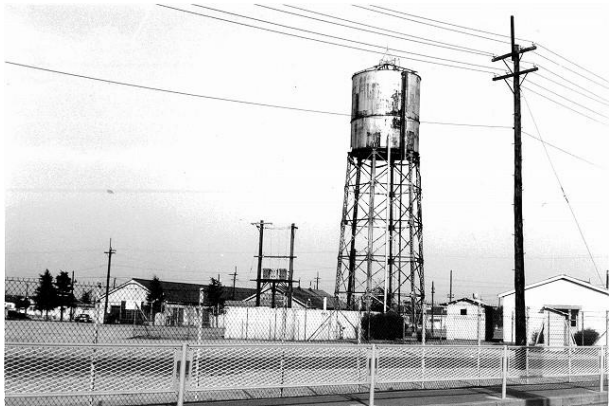
②テレビ埼玉（右図）テレ玉イブニングＮＥＷＳ

5月24日（金）17：45～

②見学会＆シンポジウム「ジョンソン基地の米軍ハウス」　　12/15

東町の「ジョンソンタウン（旧磯野住宅）」は、元米軍ハウス（通称ハウス）であったことが魅力の源になっている。敗戦後、ジョンソン基地が進駐した旧豊岡町には、アメリカの文化が漂う進駐軍家族用の住宅が基地の内外に数多く作られた。
米軍が退去した後も、日本人の住宅や店舗などとして使用されてきましたが、今ではわずかとなっている。この「ハウス」を基地の町だった入間市の文化遺産として考え、その歴史的背景や生活の様子、文化的な影響などを掘り起しながら「ハウス」の戦後占領期の文化史的意義を確認するための企画とした。

1）資料収集



米軍ハウスに関する資料の収集には、ジョンソン基地時代に米軍ハウス（現在のジョンソンタウン）に住んでいた米国人と当会会員との旧交による関係から、当時の写真等（右図上）を米国から送ってもらうことができ貴重な資料として入手ができた。

また、今回のテーマに関して資料収集していることを広報したことによって、基地内で元通訳、その後ハウスの管理に携わっていた谷豊氏との出会いを得たことは、当時の状況を知る上で大きな助けとなった。谷氏へのヒアリングや提供資料は当時の様子を知る上でも貴重なものである。また、なにより谷氏自身が当時の事を記録としてまとめていたことが、各資料の関連性を高める貴重性を増している。

東町周辺に在住する、あるいはしていた方で当会会員と顔の見える関係のある方たちからも貴重な写真（右図下）の提供が得られた。市を通じての情報提供者もあった。

東町１丁目のジョンソンタウンの見学会を本事業で企画したことから、磯野商会より提供された図面、写真もその時代を呼び起こす貴重資料であった。

他にも資料提供の呼び掛けをチラシ等の配布、ネット上で行ったが必ずしもこのことによって大きな成果は得られなかった。しかし、数人からでも当時の写真等資料が得られたことは、情報収集の方策について検討すべき点があったと捉え、次年度にも再度呼

びかけを行うなど、今後の課題として考えたい。

博物館所蔵の写真類にも今回のテーマに合い、一般に公開されていないものが多数存在する。また、インターネット上にもジョンソン基地に関連する貴重写真、動画等が存在することが確認できた。

DEPENDENTS　HOUSING（1948 年）、占領軍調達史（1956 年）、占領軍住宅の記録（1999 年）など占領下の基地や米軍ハウスに関係する書籍からも知見を得た。

年度内事業としてはこれらの資料の中から選択した写真や資料をパネル化し、機会を得て展示の場を３回得た。また、シンポジウムのリーフレットとして資料の一部をまとめることで、資料を活用した。さらに残りの多くの資料はこれからも整理を続け、電子版への掲載を行うことになるが、その成果としては次年度の扱いとしたい。

△配布資料

2）広報活動

市報への掲載。印刷チラシ（右図）の公民館等への配布。生涯学習フェスティバルおよびその後にプレイベントとしてパネル展示を行い、企画の広報とした。

チラシの図は、狭山市博物館で平成 24 年度に開催した「ジョンソン基地とハイドバーク展」のポスターの制作者である中島大意氏に協力いただいた。

5 月の企画展と同様に 11/20 に所沢記者クラブにてプレスリリースを行った。その結果、11/28 に読売新聞（右図）、12/14 に埼玉新聞朝刊への記事掲載があった。

3）プレイベント、資料展示

資料収集の過程で、博物館に貴重写真等が保存されていることが確認でき、会の内部学習も兼ね一般公開として入間市博物館学芸員の梅津あづさ氏を講師に「写真と図で見る入間市の歴史」をプレイベント１として開催（11 月 19 日（火）19：00～20：30　市民活動センター・活動室１　参加者 13 名）した。

また、イベントの PR を兼ねて「ジョンソン基地の米軍ハウス」関連写真展として、市役所 1 階ロビーの壁面に、収集資料の一部をパネル化し 12/2（月）～12/13（金）までの 2 週間公開展示し、プレイベント 2 と位置付けた。

パネルの展示は、プレイベント 2 の前日 12/1（日）に生涯学習フェスティバルにて、本事業成果の発表と事業 PR を兼ねて、1 度目の展示を行っていた。

12/15 のイベントに際しても、来場者に対して成果の発表の場としてホールホワイエにてパネル展示（右図）を行う。また、ジョンソンタウン内の見学ハウス室内にもパネル展示を行った。

4）見学会（午前）

米軍ハウスの町並みを残すジョンソンタウンの見学会を午前のイベントとして実施した。参加は事前申込制とし、往復はがき（17 名）、FAX（25 名）、メール（35 名）にて対応した。師走ということもあり、キャンセルも多数出たが申込参加者は最終的に 65 名となり、他に関係者５名の参加を得て合計 70 名となった。（募集人数は 80 名）

磯野商会との打ち合わせも数回重ね、当日も磯野社長をはじめスタッフの協力を得て、会場設営、ハウス（２棟）の説明を担当いただく。当方のスタッフは、いかす会会員 12 名、協賛団体である埼玉建築士会入間部会１名、人財塾５名で対応した。

5）講演会＆シンポジウム（午後）

午後は、会場を産業文化センターに移して、以下の次第の講演会＆シンポジウムを実施する。午前中からの参加者に加え、午後からの一般 43 名、関係者 15 名が参加した。

開演にあたり、当会会長の挨拶の後に、田中入間市長の会の挨拶を得た。

入間にとっては町の歴史としても特異な時代であったジョンソン基地時代と米軍ハウスとの関わり、その占領時代全体の背景と情勢、入間での状況、その中での証言など、あの時代の一断片を垣間見ることのできた内容となった。

内容の詳細に関しては、当会の HP に動画記録を掲載しているので参照されたい。

◆基調講演

「ディペンデントハウスについて」

内田青蔵神奈川大学教授

建築史家。工学博士。日本の近代建築に詳しく、建物の保存・再生でも各地で活躍。著書『日本の近代建築史』『お屋敷発見』共著『占領軍住宅の記録』など多数。

◆報告

「ジョンソン基地とハウスの歴史」

吉田茂雄氏

入間市の文化遺産をいかす会会員

入間市文化財保存同好会

◆パネルディスカッション

「ハウスの文化史的意義」

コーディネーター： 内田青蔵氏

パネリスト：

磯野達雄氏（磯野商会社長）

渡辺治氏（建築家）

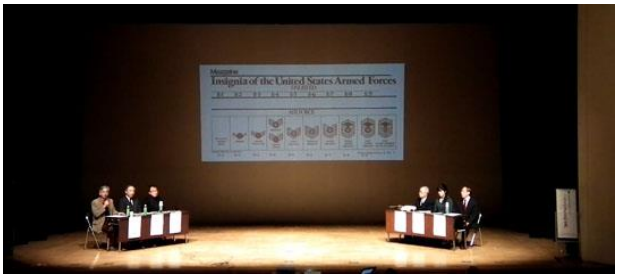
谷豊氏（元ジョンソン基地の通訳、基地外のハウス管理）

上田知佐子氏

（元狭山市立博物館学芸員）

石川嘉彦氏

（入間市の文化遺産をいかす会会長）



※司会：染井佳夫（入間市の文化遺産をいかす会副会長）

◆来場者数：125 名　　運営人数：18 名

※配布資料　別添のオリジナル資料（A4-8 頁）、ジョンソン基地とハイドパーク展（狭山市立博物館）リーフレット、ジョンソンタウン関係（リーフレット２部、クーポン券）、その他注意事項等

6）取材・放映

①入間ケーブルテレビ　ニュースいるま

12 月 17 日（金）　初回 17：45～、（再）22：15～、 翌日９：00～

１月「彩の国ケーブルテレビ情報局」の中でも放送。

②テレビ埼玉　テレ玉「ニュース 930」

12 月 17 日（火）21：30

③文化遺産解説電子版・・・入間こけーら文化遺産発掘隊

インターネット上に入間市の文化遺産の情報を発信することを目的とするホームページを開設する。

２ヵ年の継続事業と捉え、初年度の今年はその基本構成を構築することを中心に行う。

サイトは運用が容易で、利用実績のある無料ブログサービス（seesaa）を活用して行う。

公開する資料は平成 24 年度に作成したこけーらマップに掲載した黒須地区の文化遺産を中心とし、関連している情報も加えながら「入間こけーら文化遺産発掘隊（β版）」として公開した。イベント対応に時間が集約されたことから、公開の時期は当初予定よりも遅れたが、β版をバージョンアップさせながら次年度の取り組みとしたい。

今年度２回のイベントを通じて収集した情報、資料に関してはその一部を掲載し、次年度に残りのを掲載することとする。

また、次年度も資料収集のイベントを開催し、新たに文化遺産を発掘しながら、公開資料としてまとめていく計画である。

なお、試験的にＱＲコードを活用して、携帯電話から公開記事へのアクセスを可能とする試みをした。

◆URL：http://kokera-home.seesaa.net/

◆今年度公開とした文化遺産等（記事数）・・・12 記事

旧石川組西洋館(3)
武蔵豊岡教会(3)
石川洋行(1)
新道の家(1)
蓮華院(1)
春日神社(1)
治水の碑(1)
入間の偉人(延 3)

西洋館

武蔵豊岡教会

蓮華院

８　まとめ

２つの情報収集型イベント（企画展「ヴォ-リズと武蔵豊岡教会展」、見学会＆シンポジウム「ジョンソン基地の米軍ハウス」）の成果は当初の予定よりボリュームの大きいものとなった。それは、資料収集していく過程で、多くの情報、資料が得られこれらを形ある成果としてまとめようという姿勢からである。展示であったり、見学会やシンポジウムであったり、また当初予定していなかったプレイベントであったりと事業数が増えたことは本事業の目的には叶うものであり、会としても充実した成果を出せたと考えているが、その分の時間と経費を予定以上に費やしてしまったことは、注意すべき点として今後の課題としたい。しかし、当初の限られた予算規模に合わせた事業とすれば会として満足が得られた成果となりえたのかというとその判断は難しい。

今回の資料収集は、地元の歴史との応答であり、文献調査の部分よりも実在する人々の記憶や記録に頼る部分が多いテーマであった。その分、現代にもつながっているものを知ることもできた。

ジョンソン基地やハウスに関する資料収集には、顔の見える関係から広げていくことが有効であることは今年の経験から分かったが、さらにそれを横に広げながら眠っている資料の掘り起こしを次年度も続けて行くこととなる。

収集した多くの資料は電子版に掲載する事を目指しているが、今年度内でアウトプットするには整理の必要もあり、公開に向けては継続してまとめていきたい。

協働の相手である入間市博物館には助言をいただくと共に、貴重資料の貸し出しなどの支援をしていただいた。この場を借りて御礼申し上げたい。

アンケート　感想

◆見学会＆シンポジウム「ジョンソン基地の米軍ハウス」

良かった、やや良かったとの評価が多かった。以下に主な内容を記す。

- あまり専門的にすぎなかったかと思います。
- 大変勉強になりました。
- 写真を中心としたプレゼンテーションで分かりやすかった。
- 生の声がちゃんと入っていること、写真の説明も分かりやすかった。内田先生の基調講演は是非パンフレット等に作成して配布して欲しい。
- ジョンソンタウンの存在は知っていたが、中に立ち入ったこと、ショップを見たこともなかったが、よく見れた。歴史的に価値がある事を知った。

- 基地の歴史が分かり易く良かった。資料代をもっと安くして多数の人に聴いてもらったら良い。
- DH（ディペンデントハウス）の歴史、背景について理解することが出来、有益であった。
- もっと詳しく説明聞きたかった。
- 得難い貴重なお話、資料で良かった。
- 年表、写真など効果的に組み合わされて分かりやすい。
- 米軍ハウスの基本を知ることが出来ました。
- ジョンソンタウンがどのように修復して現在に至ったのか良くわかった。ジョンソンタウンの見学は、少し制約があって残念だった。もう少し近ければまた来られるのに少し残念。（町田市在住）
- 始めて聞く接収の詳細や実際に関った方々のお話、大変充実していました。入間のこういう取り組みが広がっていることを感じ、うれしく思いました。
- 多彩なパネリストが揃い、時間が短く感じた。興味深い話ばかり、基調講演も素晴らしかった。
- 資料をもう少し充実していただきたい。
- 見学+シンポジウムでたくさん勉強させていただきました。特に、谷さんと石川さんのお話が当時の状況を伺えて良かったです。
- 当時の様子が分かって面白かった。
- 住宅や建築の分野に特化しすぎた感があった。当時の思い出話などをもっと聞きたかった。
- 貴重な生の声（話）を聞くことができた。内田先生の話も良かった。
- 講演会・パネルディスカッションの内容は充実していて良かったが、一部資料のない箇所があり残念だった。
- ハウスの「意義」を認識できた。
- 貴重な資料と話が連動していたことが分かりやすく良かった。
- パネリストが多くて話が途中。もっと一般市民の基地時代の話が聞きたかった。
- DHハウスが戦後の洋風な暮らしの基礎になったことが良くわかった。
- 資料は充実していたので資料代としては高くないと考えるが、午後の開会を 13時にして16時30分までにならなかったのが残念。Q&Aもあったら良かった。

９　その他

【記録：当会ホームページ記事】　平成 25 年度入間市市民提案型協働事業まとめ

http://ib-ikasukai.seesaa.net/article/389524168.html

【添付資料】

◆文化遺産解説電子版「入間こけーら文化遺産発掘隊」　抜粋ページ

◆告知用チラシ　A4　２枚両面印刷

・企画展「ヴォ-リズと武蔵豊岡教会展」

・見学会＆講演会　「ジョンソン基地の米軍ハウス」

◆見学会＆講演会　「ジョンソン基地の米軍ハウス」　配布用資料